

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。  
Copyrighted materials of the authors.

「インドネシア諸語の記述的研究」  
平成22年度第四回研究会

日時：平成22年10月10日（日）  
午前11時より午後6時

場所：AA研306号室

報告者名：AA研共同研究員 明星大学 内海敦子

インドネシア諸語の記述的研究 第四回研究会報告

**第一部 11:00-12:20**

山口真佐夫（摂南大学）「東南スラウェシの言語、チアチア語のハングル表記」

**第二部 14:00-18:00：インドネシアおよびその周辺言語の reduplication**

14:00-14:40 発表1

内海敦子：「バンティック語の reduplication」

14:40-15:20 発表2

稲垣和也：「カドリ語の重複構造に関する諸問題」

15:30-16:10 発表3

スリ・ブディ・レスタリ：

「ジャワ語における reduplication—動詞の重複を中心に—」

16:10-16:50 発表4

三宅良美：「ジャワ語の名詞、形容詞の Reduplication」

17:00-17:40 発表5

野瀬昌彦：「トクピシンの reduplication」

17:40-18:00 論文執筆・出版に向けての話し合い

## それぞれの発表の概要

### 第一部

山口真佐夫（摂南大学）

「東南スラウェシの言語、チアチア語のハングル表記」

東南スラウェシ州で話されているチアチア語 (Bahasa Cia-cia) は、2007 年ごろより、韓国の訓民世宗學會が協力し、ハングルによる表記を推し進めてきた。

山口は 2010 年 7 月にチアチア語が話されている地域も含まれる Baubau 市で行われた国際学会に参加した。その際にチアチア語をハングルで表記をしている地域を訪れた。チアチア語地域の一部では、小学校一校、中学校一校、高校一校においてハングル表記の授業が行われている。これらの授業は、Muatan Local (地域において独自に授業内容を決められる、週に二時間程度の科目) において行われているようである。ハングル表記の教科書も既に作成され、用いられている。ハングルを導入することで、チアチア語話者の児童・生徒がチアチア語に対する興味を持ち、熱心に勉強するようになっていたとの情報もある。

このような利点の反面、山口報告においては、Pusat Bahasa を中心とする根強い反対派が存在することも明らかにされた。また、ハングルを用いてチアチア語をある程度書くことができるが、ある種の子音については非常に複雑な書記法を取らなければならない、その言語を知らなければ読めないような綴りになるという欠点もあることが明らかにされた。

### 第二部

内海敦子、稲垣和也、スリ・ブディ・レストリ、三宅良美、野瀬昌彦

「インドネシアおよびその周辺言語の reduplication」

第二部においては、内海がインドネシア国スラウェシ北部州のバンティック語について、稲垣がインドネシア国カリマンタン島のカドリ語について、レストリおよび三宅がジャワ語について、野瀬がトク・ピシン語について、reduplication の報告を行った。あらかじめの申しあわせどおり、形態について触れ、その後、reduplication が観察される語の意味的特徴について報告を行った。

### 論文執筆に向けての話し合い

第二部終了後、インドネシア諸語の reduplication に関する論文執筆について話し合った。年度内の完成を目指し、メール会議を通じ、執筆のガイドライン作成を行うことに決定した。